

平成 29 年度新規高卒者雇用優良企業

アルプス電気株式会社小名浜工場

【企業概要】

- 事業内容 電子部品の開発・製造
- 代表者 工場長 小林 秀明
- 従業員数 515 人（男性：384、女性：131）
- 所在地 いわき市小名浜野田字柳町 41-25
- U R L <http://www.alps.com/j/>



【アルプス電気株式会社小名浜工場】

アルプス電気株式会社は、自動車・家電製品・情報通信機器・携帯電話など約 40,000 種類の電子部品を世界中の企業に供給する「世界のものづくりを支える総合電子部品メーカー」です。

今回、同社小名浜工場における新人教育体制と様々な働き方改革の取組みについて、総務課長の俣田真志さん、入社 2 年目で部品製造グループの内田直哉さん、同グループで内田さんの指導員を務める太田早苗さんにお話を伺ってきました。

マン・ツー・マンの新人教育でステップアップを支援

―御社の新人教育研修制度についてお聞かせください。



【手前から俣田課長、内田さん、太田さん】

俣田課長：入社後すぐに 2 週間の基礎研修が行われます。その後、「ものづくり」を現場で学ぶ 3 ヶ月間の製造実習が行われ、配属先が決定します。入社 1 年後には、仕事上の悩みや課題が生まれる時期ですので、上長ではない第三者の立場の私と個別面談を行いながら職場定着状況等の確認も行っています。

当社の創業者の「会社が潰れても、個人が潰れるわけにはいかない」という言葉のもと、資格取得の奨励や様々な研修を用意し、人材育成に重きを置いています。

―入社 2 年目の内田さんに伺います。今はどのような仕事を担当していますか？

内田さん：4 月から、生産計画の業務に就いています。製造部には、計画・製造・検査・出荷の 4 段階があり、最初の段階となる計画は、部品の発注や生産調整等「ものづくり」をコントロールする要だと思っています。

1 年目は、ものをつくる製造の業務で、部品などすべて準備されており、他部署の人たちとのやりとりもなかったため気づきませんでした。一つの製品に多くの人の手がかかっていることを改めて知りました。

―就職を決めたきっかけを教えてください。

内田さん：小さい頃からものづくりに興味があり、地元で働くために工業高校を選択しました。高校 1 年生の時の企業見学会でアルプス電気を訪問し、ものづくりの現場、社員の雰囲気などから、ここに就職したいとの思いが強くなりました。

―今後の目標を教えてください。

内田さん：専門的な用語が飛び交う中、多くの部署の人たちとのやりとりが生じています。日々、臨機応変な対応が求められますが、わからないことは指導員の太田さんにすぐ聞ける状況なので、一つでも多くのことを吸収し、製造部門でのスペシャリストを目指したいと思っています。

―指導員の太田さんに伺います。新人を指導する上で心がけていることは何ですか？

太田さん：新人 1 人に先輩 1 人が 1 年間担当となって教育する「マン・ツー・マン教育」制度があり、今年指導員になりました。勤続 30 年近くになりますが、指導員として新人を育てるのは初めての経験です。

不安はありましたが、本社で行われるリーダー研修に参加し、同年代の社員とともに、先輩社員としてどうあるべきか、後輩とどう接するか、傾聴姿勢の重要性などを学び、研修後は、より効果的な指導ができるようになったと思います。



【指導をうける内田さん（左）】

常に、難しい言葉は使わず、わかりやすく、やさしい言葉で話すよう心掛けるほか、コミュニケーションを密にして、人となりを理解するよう務めています。また、高校生になる子どもと同年代ですので、仕事を家庭と結び付けながら、親の目線で指導することもあります。

―内田さんにどんな社員になってほしいですか？

太田さん：誰かがやるのを待つのではなく、自らが率先してやることを心がけてほしいと思います。また、仕事を円滑に進めるためには、常日頃からコミュニケーションを図ることや、思いやりを持つことが必要です。

ぜひ、新しい業務にも積極的にチャレンジし、いろいろな部署を経験し、人脈を深めてもらいたいと思います。

多様な働き方が社員と企業の魅力アップに

―従業員のワークライフバランスを図る取組みはありますか？

俣田課長：有給休暇は年 20 日付与しており、取得率 80% を目標に掲げています。仕事以外の人脈づくりでアイデアが生まれることもあり、休暇を残すことは、会社と本人にとってもマイナスになるとの考えが徐々に社員にも浸透し、昨年の取得率は、70% 程度となりました。休暇が取得しやすいように、複数人体制での業務を進めるほか、アンバーサラー休暇を設け、取得を奨励しています。

また、有給休暇とは別に、資格取得や介護などに利用できる多目的特別休暇を設けるほか、4・6・7 時間の短時間勤務や在宅勤務など、多様な働き方を導入しています。

その他、時間外勤務の減少にも取り組んでいます。これまで、各自必要に応じて残業をしていますが、出退勤も含め、上長が毎日確認・承認を行うことで、部署の状況把握と対策が図られるようになりました。また、出退勤の確認により職場内でのコミュニケーションも図られるため、時間外勤務縮減という結果に表れるようになってきたところです。ただし、今後もなお一層の縮減に努めたいと思っています。



【社員による季節に応じたウェルカムボード】

夢を与える企業を目指します

―今後、より魅力ある職場にするため、どのような取組みが必要になるとおもいますか？

俣田課長：平成 29 年 4 月から、上長への申請と許可を条件に副業を認めました。違う仕事の経験や多くの人との出会いは、様々な知識の習得や人脈を広めることとなり、仕事に活かすことができれば、社員の魅力とともに、企業の魅力アップにつながるものと思います。

高校生や小中学生の職場見学受入れのほか、年に 2 回の親子体験教室と、小学校からの依頼に応じた社員によるものづくり体験教室を実施しています。毎年、地元の高校生を採用していますが、親や先生から進められて就職する人は、自分の理想と現実のギャップで辞めてしまうこともあります。職業選択を早い段階にできるよう、学校との交流を図っていくことが必要だと感じています。地元の企業であるわが社を知ってもらうための取り組みを積極的に行い、若い人の地元定着に貢献したいと思っています。

―これから就職を考えている方へメッセージをお願いします

内田さん：今、3 交代制の勤務ですが、友人と一緒に休暇を楽しむこともできますし、やりたい仕事をやっているので、つらいと思ったことはありません。ぜひ、高校生の時に、いろいろな企業をみて、やりたいことを決めてほしいと思います。

太田さん：企業見学などの機会を活用してやりたいことや仕事を見つけてほしいと思います。やりたい仕事に就くことが長続きにつながると思います。

俣田課長：どの様な仕事をしたいかを考えて就職活動をしてほしいと思います。その際は、自分の夢を実現できる会社にチャレンジしてほしいですね。わが社としても、今後期待できる次世代産業となるバッテリー産業に関わるなど、いわきの子もたちにとって将来への夢を与えられる企業を目指したいと思っています。



【右から俣田課長、内田さん、太田さん】